

令和4年度 学力調査結果 速報

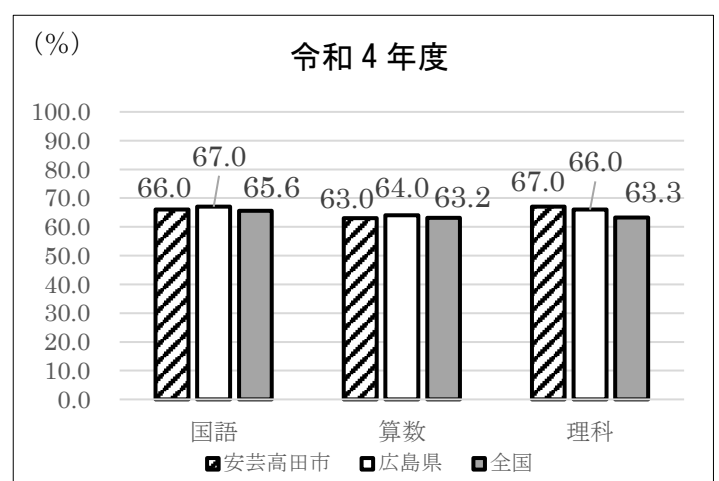
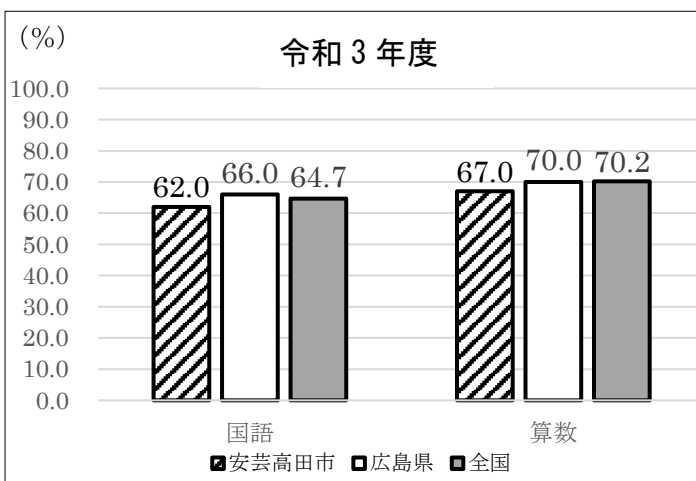
◎全国学力・学習状況調査（4月19日実施）

- 実施教科・・・（小学校第6学年）国語 算数 理科
（中学校第3学年）国語 数学 理科
- 実施人数・・・（小学校）192人 （中学校）170人

◆教科調査結果

＜小学校第6学年＞

■平均正答率



～教科調査の結果について～

【国語】＜内容＞「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」

- ・教科全体の平均正答率が66%で、県平均及び全国平均と同程度である。
- ・「話すこと・聞くこと」「我が国の言語文化に関する事項」の内容は、正答率が県平均と同程度であるが、その他の内容は県平均を下回った。
- ・「文章の全体像を把握して読むこと」「読んだことをもとに自分の考えを書く」といった「読むこと」の内容について課題がある。

【算数】＜領域＞「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」

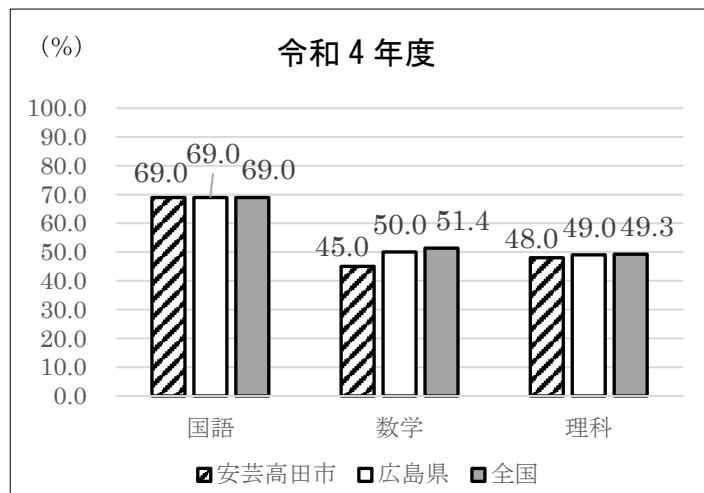
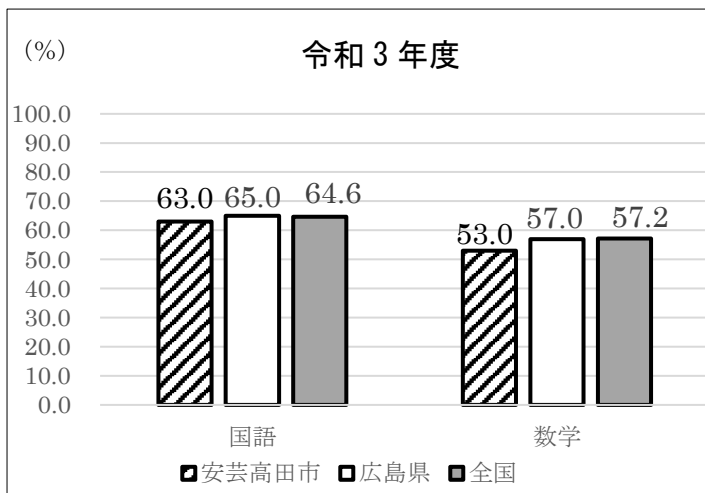
- ・教科全体の平均正答率が63%で、県平均及び全国平均と同程度である。
- ・「図形」領域は、正答率が県平均を下回っており、それ以外の領域は、県平均と同程度である。
- ・「割合を分数で表す」「割合の求め方」などの「変化と関係」の領域について課題がある。
- ・県平均と比較して、基礎的な問題でのつまずきが大きい。

【理科】＜領域＞「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域

- ・教科全体の平均正答率が67%で、県平均と同程度で、全国平均を上回った。
- ・「生命」の領域は、正答率が県平均を上回り、他の領域は同程度である。
- ・「観察や実験の結果を解釈し、自分の考えを記述すること」について課題がある。

<中学校第3学年>

■平均正答率



～教科調査の結果について～

【国語】<内容>「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」

- ・教科全体の平均正答率が69%で、県平均及び全国平均と同等である。
- ・「読むこと」以外の内容は、正答率が県平均と同程度、又は上回った。
- ・「登場人物の心情の変化を読む」「表現技法の理解」など、「読むこと」の内容について課題がある。

【数学】<領域>「数と式」「図形」「関数」「データの活用」

- ・教科全体の平均正答率が45%で、県平均及び全国平均を大きく下回った。
- ・全ての領域において、正答率が県平均を下回った。
- ・県平均と比較して、「素因数分解」「反例の意味」「変化の割合」「nに代入して計算式を説明する」「証明から合同条件を答える」などの基礎的な問題でのつまずきが大きい。

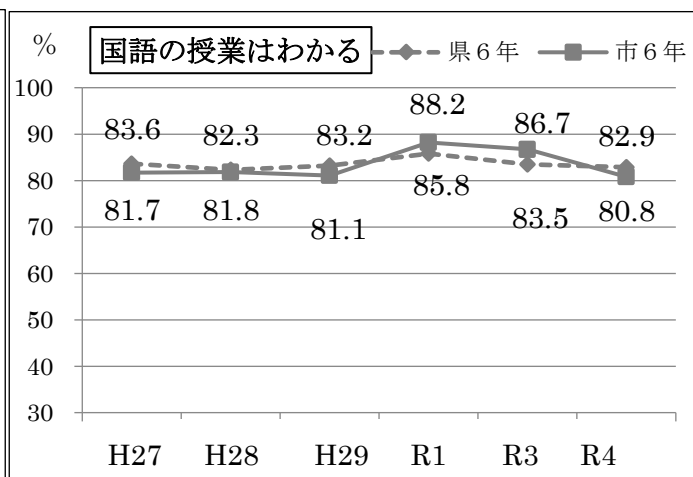
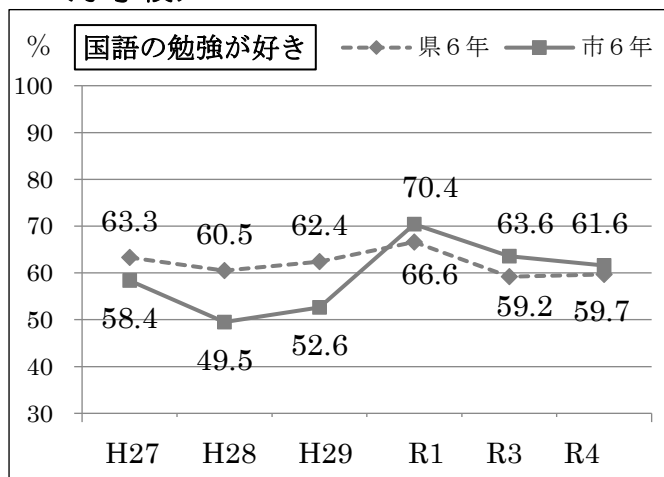
【理科】<領域>「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域

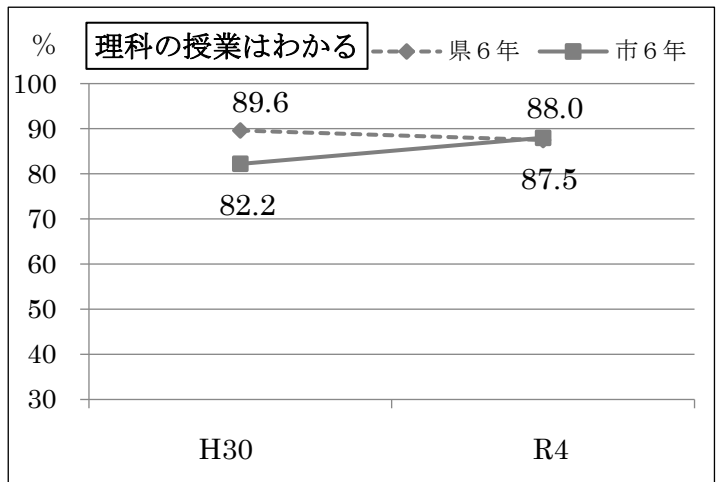
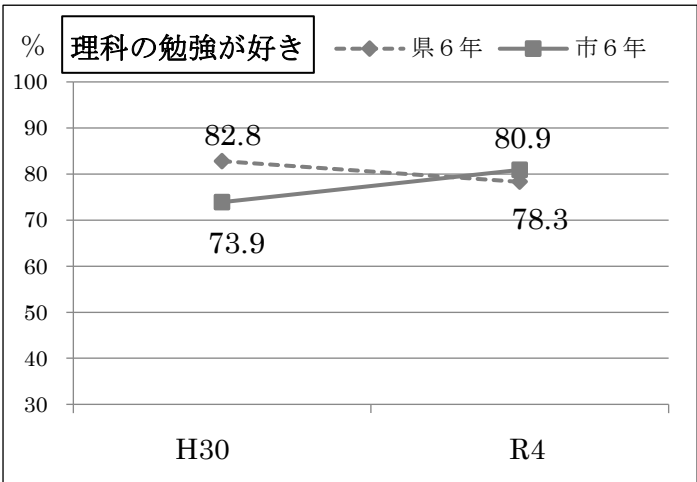
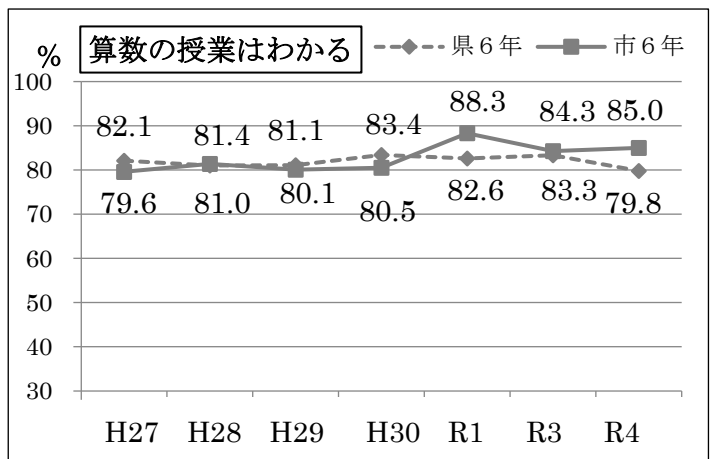
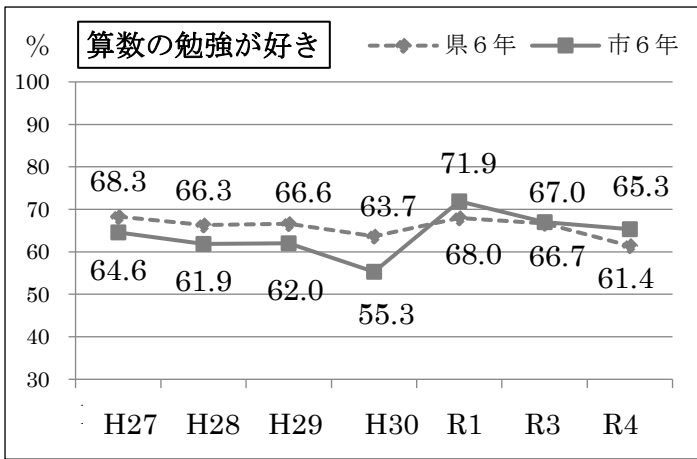
- ・教科全体の平均正答率が、48%で、県平均及び全国平均と同程度である。
- ・「エネルギー」「粒子」の領域は、県平均と同程度であるが、それ以外の領域は、県平均を下回った。
- ・「観察や実験などをとおして科学的に探究すること」について課題がある。

◆質問紙調査結果

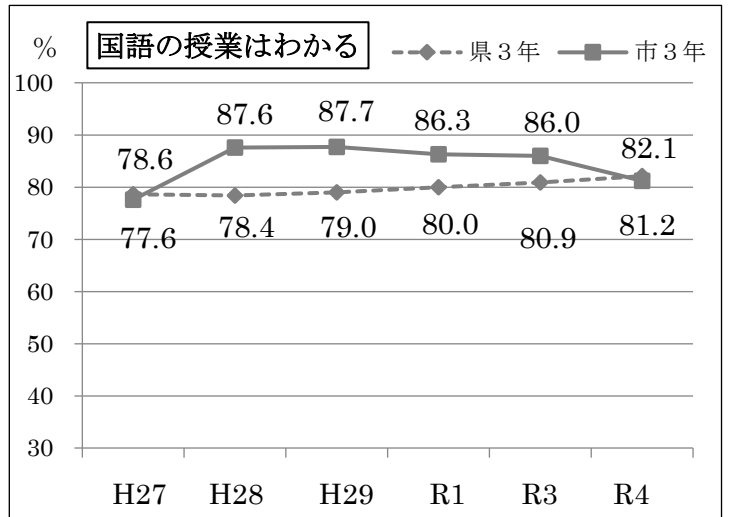
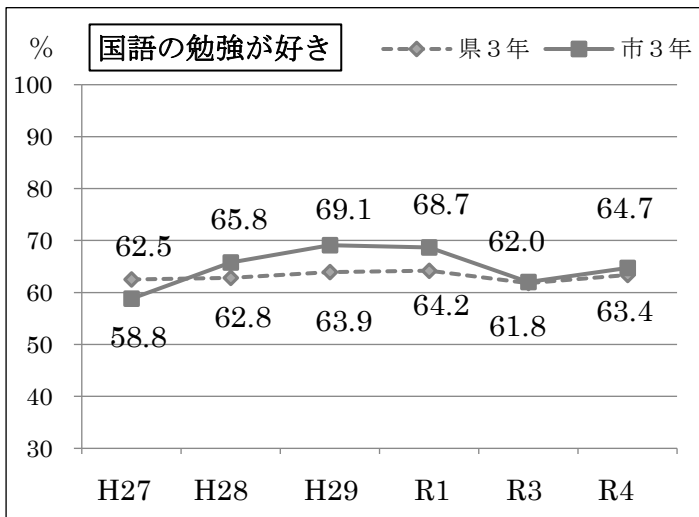
(1) 学習意欲

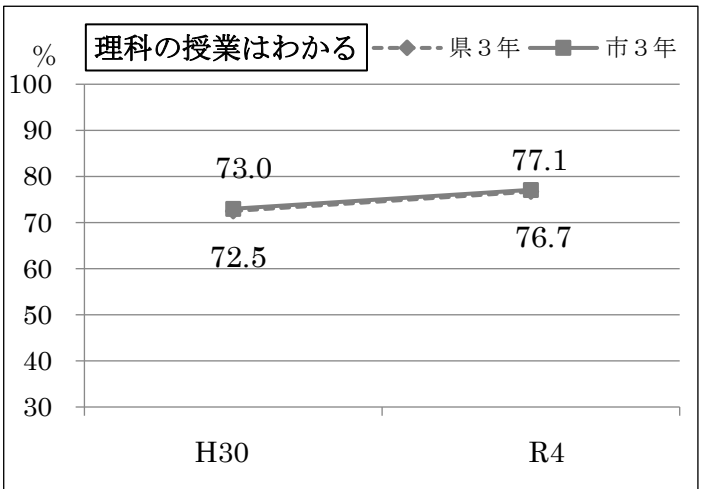
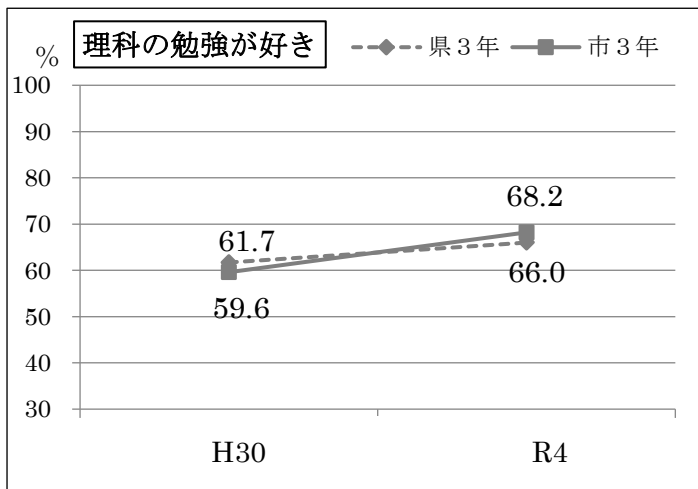
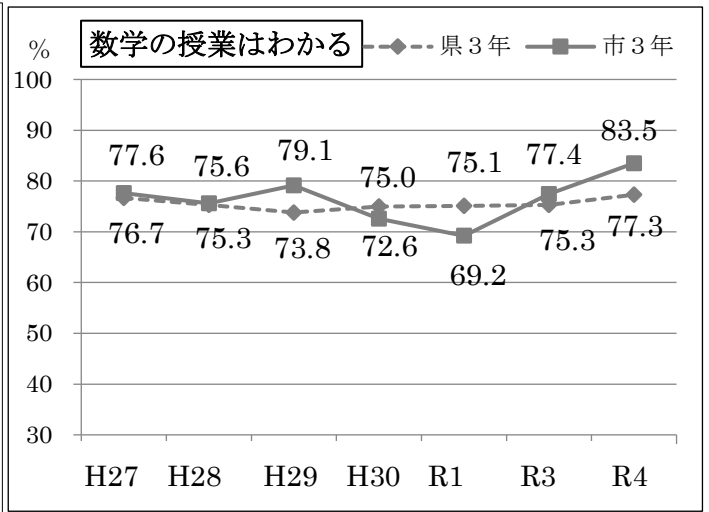
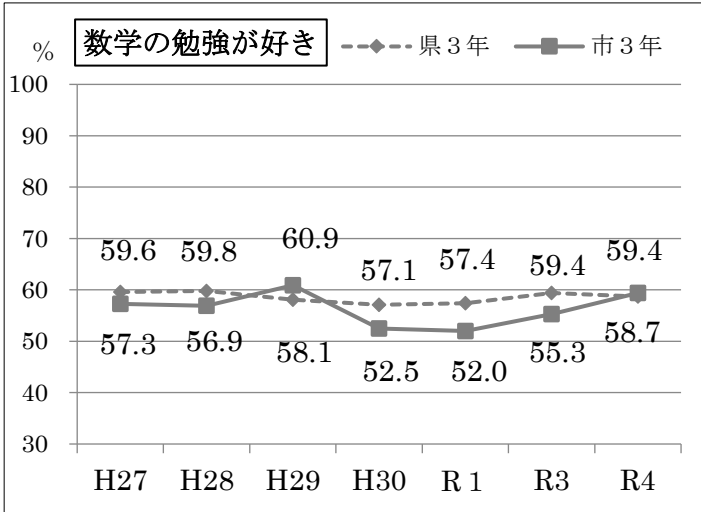
<小学校>





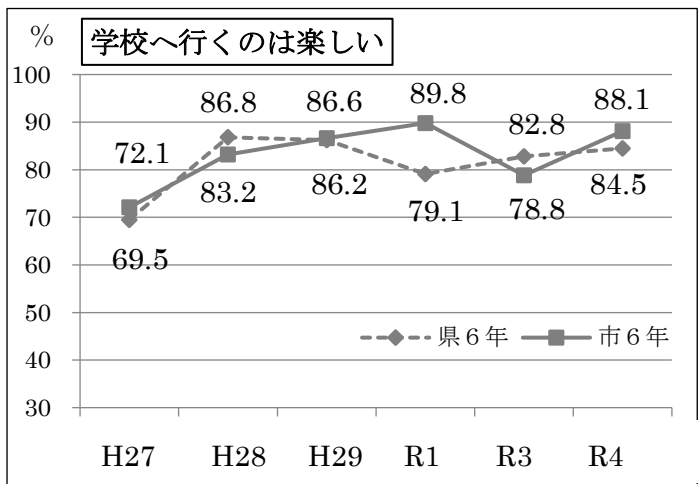
<中学校>



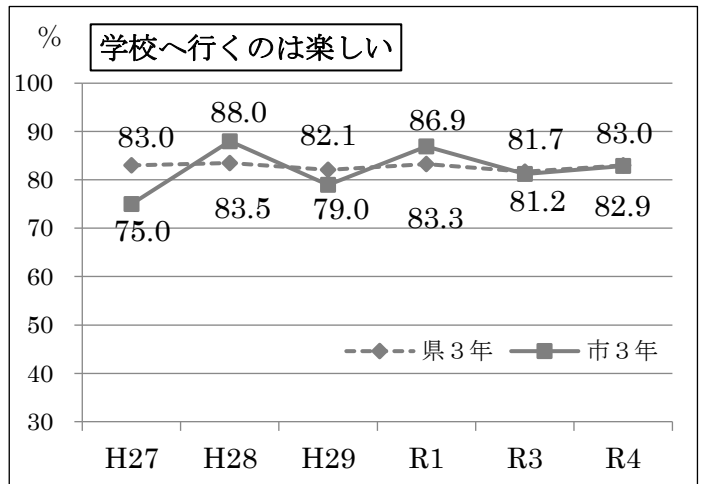


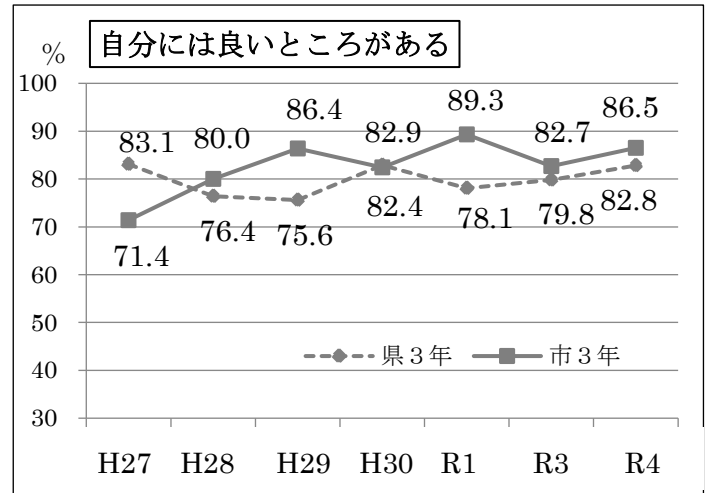
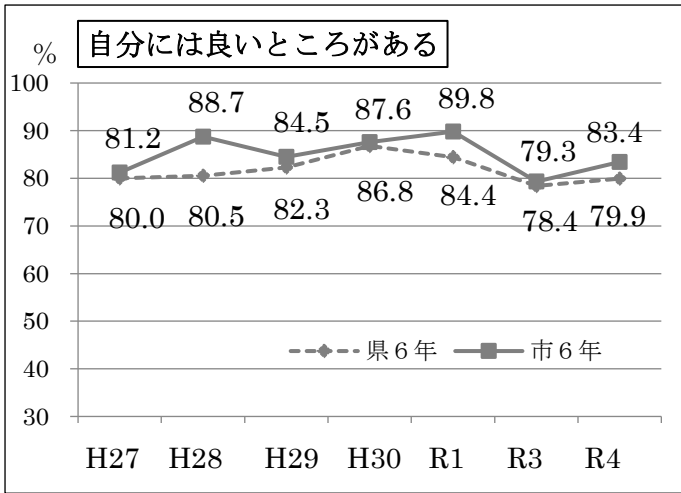
(2) 所属感・自己肯定感

<小学校>



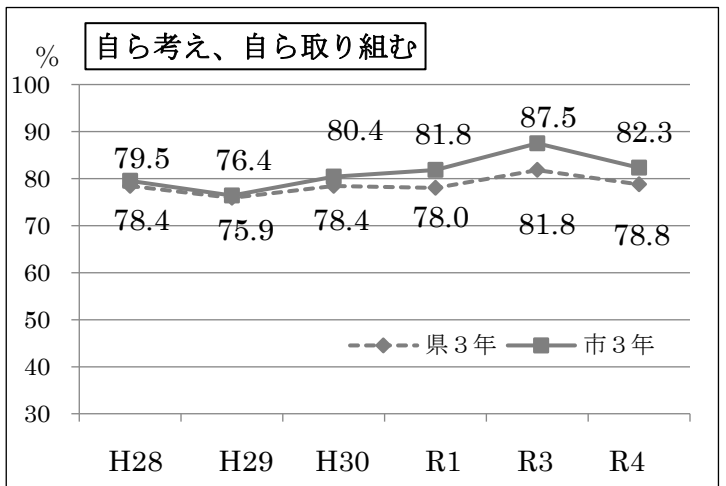
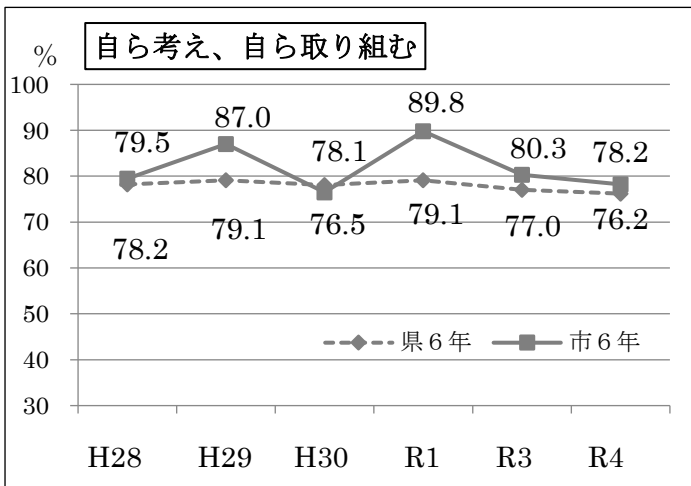
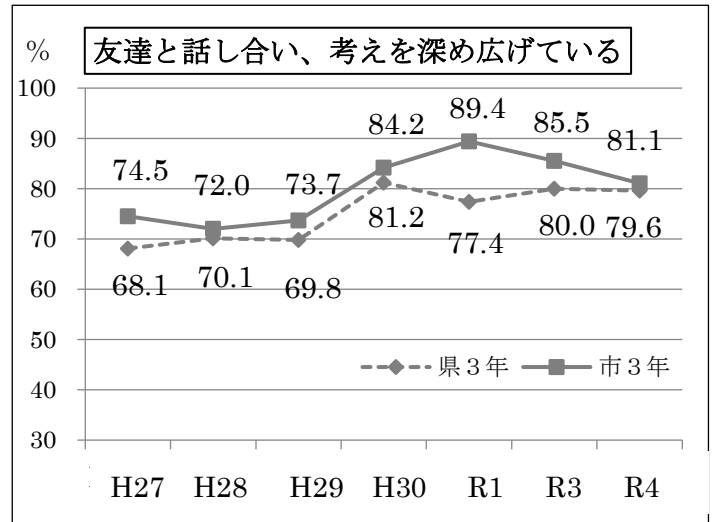
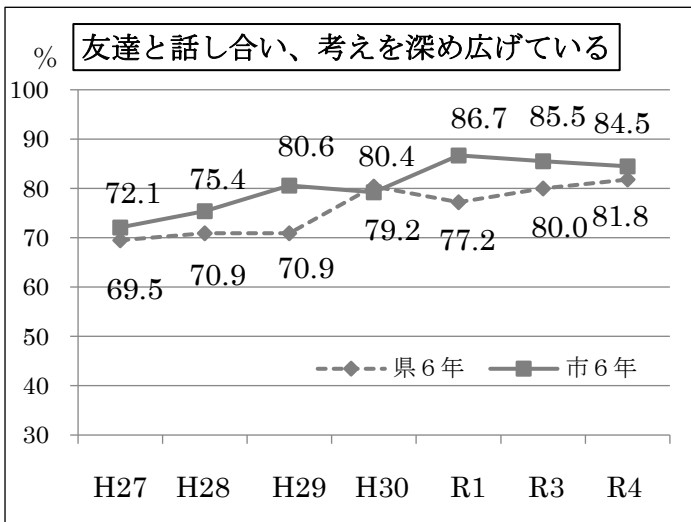
<中学校>

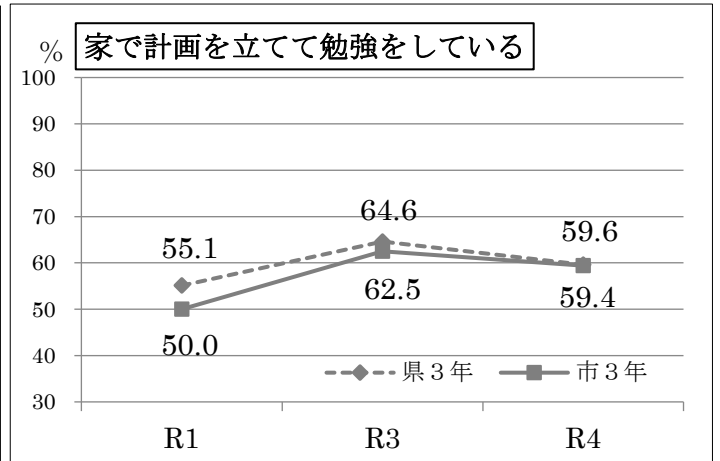
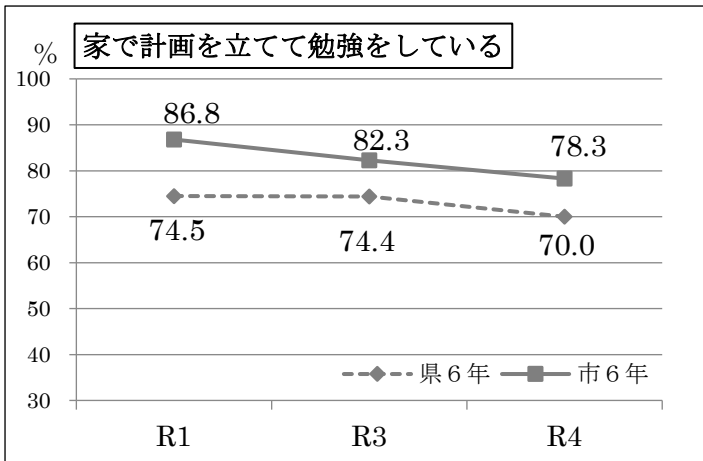




(3) 学び合い・主体的な学び
 <小学校>

<中学校>





～質問紙調査の結果について～

- 小学校、中学校ともに、肯定的な評価が県平均を上回っている項目が多い。
- 「所属感」「自己肯定感」に関する項目について、肯定的な評価が県平均を上回っている。
- 「学び合い」に関する項目について、肯定的な評価が県平均を上回っている。
- 「授業が分かる」については、肯定的な評価が高いものの、「好き」については低く、近年、この傾向が続いている。教科に関する学習意欲や興味・関心を高めることが必要である。

～全体にかかわって 考察～

- 小学校理科、中学校国語については、概ね理解できているといえる。
- 「学び合い」に関する項目について、肯定的評価が高い学校は正答率が高い傾向にあることから、「学び合い」を取り入れ、良さを実感することが、成果につながっているといえる。
- 小学校で学力と意欲をつけきれていないまま、中学校に上げている傾向がある。また、そのつまずきを中学校で改善できておらず、特に数学においてはつまずきが大きくなっている。
- 教科に関する学習意欲や興味・関心を高められていないことと、基礎的な問題にも課題があることから、「教科の本質を踏まえた授業づくり」や「学び合ったことをもとに自分で整理する」ことが必要である。
- 学力向上、意欲向上につながる「学び合い」になるよう、各校の授業改善を進める必要がある。

～今後の取組～

- 各学校において、質問紙調査と関連付けて成果と課題を分析し、授業改善に生かすとともに、一人一人の児童生徒への支援を行う。
- 学校教育課においては、次の取組を行う。
 - ①各校の課題分析に基づいて、面談を行い、訪問指導において取組の進捗を確認する。
 - ②「学び合い」の授業づくりにおける各校の課題に対する指導を行う。